織田若一さんが制作するヒオウギ貝の工芸品は、須ノ川にある観光施設「ゆらり内海」で販売されています。通信販売にも対応していますので、下記のホームページをご覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

▶ゆらり内海
所在地：愛南町須ノ川286番地
営業(入浴)時間：11:00～22:00
定休日：水曜日
電話番号：0895-85-1155

ゆらり
ホーム
ページ

ヒオウギ貝について

ヒオウギ貝の色鮮やかな貝殻は天然の色です。愛南町では内海地域で盛んに養殖が行われています。

６月ごろに杉葉を海につけて稚貝を採取し、１年半から２年かけて養殖します。味はホタテ貝に勝るとも劣らず、甘味があって濃厚で、刺し身、焼き物、煮物、揚げ物、炊き込みご飯などさまざまな料理に用いられています。

見た目が美しいヒオウギ貝の貝殻は、工芸品作りなどにも活用されています。

あいなん逸品図鑑 その㉕

逸品図鑑「ヒオウギ貝の工芸品」

愛媛CATV
動画

ヒオウギ工房織田　織田 若一（わかいち）さん (油袋)

オレンジや赤、黄、紫などの色鮮やかな貝殻が特徴のヒオウギ貝。内海地域で盛んに養殖されているこの貝を活用し、工芸品の制作を行っている織田若一（わかいち）さん。もともと真珠母貝であるアコヤ貝の養殖が本業ですが、平成７年ごろにアコヤ貝の大量へい死が発生し、「何か他の収入源を確保しなければ」と作品作りに着手。ヒオウギ貝の活用に活路を見いだしました。

今では内海地域にヒオウギ貝を用いた作品作りを教える教室もあり、貝殻の活用が進んでいますが、「こういったものを作っているのは私だけでは」と話す織田さんが制作するのは、マグネットやキーホルダー、根付、フットランプなどです。

ヒオウギ貝の貝殻の色はオレンジが圧倒的に多く、黄や紫は少ないため、「作るときは組み合わせに苦労する」と言いますが、出来上がった作品は色がバランス良く配置されています。

販売は主に須ノ川にある観光施設「ゆらり内海」で行っており、特にゴールデンウィークなどのレジャーシーズンには県内外から多くの観光客が訪れることから売り上げが伸びるそうです。織田さんの工芸品を購入した方から手紙が届くこともあり、「きれいさに感動した」といった内容はやりがいにつながっています。

以前は売れ行きが良かった携帯電話のストラップは、スマートフォンの普及によって需要が減少したため、現在はフットランプの制作に力を入れています。「いつまで売れるか分からないでしょ」と話す織田さんですが、まだまだやる気は十分で、「収入を目的に始めたが、やり始めたらやめられないんですよ。元気なうちは続けていきたい」と笑顔を見せていました。

▲自ら養殖したヒオウギ貝を用いて工芸品などの制作を行っている織田若一さん。

▲左上から順にマグネット、キーホルダー、根付。右はフットランプ。

▲ヒオウギ貝のはんだ付けを行う織田さん。手つきは慣れたものです。